

## 令和7年度 介護予防・日常生活支援総合事業研修会（3/17開催）

### アンケート結果

回答数：33名（研修会参加者数66名）

回答率：50.0%

#### 【1】所属について

所属	回答数	割合
居宅介護支援事業所	6	18.2%
地域包括支援センター	10	30.3%
通所型サポートサービス事業所	7	21.2%
訪問型サポートサービス事業所	5	15.2%
その他（吹田地区栄養士会）	1	3.0%
その他（医療機関）	2	6.1%
その他（社会福祉法人）	1	3.0%
その他（訪問看護ステーション）	1	3.0%
総計	33	

#### 【2】職種について

職種	回答数	割合
主任介護支援専門員	11	33.3%
介護支援専門員	1	3.0%
社会福祉士	4	12.1%
保健師	0	0.0%
介護福祉士	9	27.3%
看護師	2	6.1%
その他（作業療法士）	2	6.1%
その他（管理栄養士）	1	3.0%
その他（生活相談員）	1	3.0%
その他（機能訓練指導員）	1	3.0%
その他（社会福祉主事）	1	3.0%
総計	33	

**【3】吹田市の介護予防・日常生活支援総合事業の取組について理解できましたか**

選択項目	回答数	割合
よく理解できた	21	63.6%
まあまあ理解できた	12	36.4%
知っている内容だった	0	0.0%
あまり理解できなかった	0	0.0%
理解できなかった	0	0.0%
総計	33	

**【4】本日の研修会の内容で、印象に残ったキーワードと選んだ理由について入力してください。**

印象に残ったキーワード	キーワードを選んだ理由
介護保険の理念	『進んでリハビリ等のサービスを利用し』の、『進んで』という意味を再確認したため。
本人の主体性	いくつになっても、自分らしく過ごせるようにすることが大事だと思いました。
本人の望む生活を送れるよう、有する能力に応じ、本人の意欲・主体性を引き出す	
総合事業の対象となる方の特徴	IADL の低下が介護認定につながるということ。
自立支援	私達がするサービスは自立支援であるため。
自立支援	総合事業の基本的な考え方、基本理念であることから。
自立に向けた意欲を引き出す支援	普段の、ケアマネジメントにおいて念頭に置いています。しかし、実際は難しいです。高齢者一人一人によって何が自立なのか、どうありたいのか悩むことがあるためです。
介護予防 自立支援	フォーマル及びインフォーマルを含め自立支援につなげていきたい。
自立支援会議	理想と現実的な運用とのギャップが生じると思われるが、どこまで機能していくのか、関係各位の実務と利用者の要望の至急性にどこまでマッチするのか、やや疑問が感じられる。
生きがい	自立した生活の維持が大切
趣味、生きがいを持っていると要支援になりにくい。	今後の支援にそのことを意識して取り入れていきたいと思った。
生きがいを持って暮らすことができるように	要介護状態になることを防ぐ事も大事だが、地域で支えながら楽しく暮らすことができると良いと思う。
生きがい	発症後 2 週間程度で在宅復帰に向けた関わりの中で、生きがいという部分によりフォーカスを当てた関わりや生活指導の中で地域資源の情報提供などをより共有できるようにしていきたいと考える。

生きがいをもって参加する	身体の動きのみ意識がいつてしまい、その先の本来の目的である生きがいを疎かにしてしまふことがあります。リハビリの原動力であろう各利用者様生きがいを、大切にしようと思ひなおしました。
短期集中	
訪問型短期集中サポートサービス	
85歳以上の要介護認定率の急増	これからの超高齢化社会になっていくに伴い、高齢者一人ひとりが健康に留意しないと、支えきれない時代になってきていると痛感した。もっと介護予防マネジメントを普及させる必要があると感じた。
訪問系に関するサービス通所系サービスの利用に関する推移の変化	訪問サービス、通所サービスは運営される事業も多様化し、市民の方々も選択できる幅が増えたようにも感じます。一方支援されてる家族の方々には自宅にいるより外出や通所への利用を促す傾向が強くなっていると思います。双方の良さ、サービスの多様性、必要性を今後も包括やケアマネジャーとの協議がより必要になってくると思ひました。
訪問型サポートサービスの給付費が下がり、通所型サポートサービスの給付費が伸びている	理由も書いておられたが、それ以上に現場ではヘルパーの高齢化と人手の減少の方を危惧している。 質問にも書いたが、このままではサービスはあるのに利用できない状態がどんどん進みかねない。 通所型サポートサービスはリハビリ特化型デイなど半日利用などの事業所が積極的に要支援の方を受け入れて、低報酬でも事業が成り立つようになっているが、訪問型サポートサービスではそのような事業として成り立つ方法が確立できていないため大手の事業所が受け入れなくなっている。
訪問型サービスが減り通所型サービスの増加	訪問介護の事業が減り 訪問看護や通所介護の事業が増えている現状で ケアマネとしてサービス提供が難しくなってきた。
全国的に訪問型サービスの給付費は減少傾向	コロナ明けで延利用者件数が減少していることに驚きを感じた。ヘルパーの確保が難しく訪問介護事業所内での事業縮小は色んなところから聞こえていましたが、ここまで落ち込んでいるとは思ひませんでした。
通所型サポートサービスの推移	
フレイル	初めて聞いた言葉だったから。
フレイル	IADL の低下を防ぐことが、自立のためには不可欠だと思ひました。
100歳体操	担当している利用者さんの中にも利用していたことがあり健康にしている理由と思ひえた。
いきいき百歳体操のキャッチフレーズが印象に残りました。	仲間がいる高齢者は、恐らく趣味や生きがいを有している、とも言えるのかなと思ひました。自立支援を行う中で、いかに丁寧なアセスメントが出来るかどうか重要だ。

	と思うので、こういった部分も丁寧に聞き取り、元気な高齢者がいつまでも元気に暮らせるように、社会資源に対してもっと敏感になり、支援していきたいと感じました。
脳いきいき教室	高齢者向けの教室があることを知らなかったので、フレイル予防の多様な、プログラムがあることを、もっとアナウンスしても良いのではと思った。
脳いきいき教室の存在について	吹田市独自で行っていることを知らなかったため。
介護支援サポーター	
令和8年度介護報酬改定について	初めて介護予防ケアマネジメントでの処遇改善加算が算定されることになったため。
介護報酬改定	処遇改善加算改定に伴い、案内文や承諾書を頂く、重説変更等が必要です。
介護報酬改定	

#### 【5】本日の研修会は、今後の業務に活用できそうですか

選択項目	回答数	割合
かなりそう思う	11	33.3%
そう思う	19	57.6%
あまりそう思わない	3	9.1%
そう思わない	0	0.0%
総計	33	

#### ※特に業務の中で活かしたいと感じた内容について入力してください。

業務の中で活かしたいと感じた内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フレイル改善後、長期的な介護予防の取り組みを継続できるように働きかける。</li> <li>・ 退院前の入院の方へ地域の社会資源や生きがいについてより考える場を設定できるように関わっていこうと考える。</li> <li>・ 今やっていることが正しいことだと思ったので、継続していきたい。</li> <li>・ 利用者の自立支援を考え、介護予防も関係するので、外に出る機会を増やし、元気になっていただく為に利用者に情報提供をしていきたい。</li> <li>・ 自立支援に向けての本人への意識づけの促進、多様なサービスがあることも知ってもらう必要をより感じました。</li> <li>・ 日頃、研修で従業員に指導している介護保険の理念を再認識しました。自立した生活ができるような支援を今後も続けていきたいです。</li> <li>・ 訪問型短期集中サポートサービスに該当しそうな方へ提案していこうと思う。</li> <li>・ 地域にある社会資源を整理し、介護認定の申請だけでなく、相談者のニーズに応じて情報提供をしようと思えます。</li> <li>・ 吹田市の活動資源をもっと活用できればさらにデイでの活動が広がると感じました。</li> </ul>

- ・ 個々の利用者様の様子にあった制度利用を考えていける吹田市の様子を伺う事が出来たと思います。
- ・ 訪問介護以外の活動を改めて知ることができた。
- ・ 総合事業の制度も変わるので、その都度制度の確認を通じて、利用に適切な支援を提供できるようにしたい、と感じました。
- ・ 介護予防普及啓発活動、訪問型短期集中サポートサービス等。居宅のケアマネが知らない人がほとんど。市民だけでなく、ケアマネへの啓発、周知すること。今日の説明で、より詳しく伝えることが出来そうです。
- ・ 吹田市民はつつ元気大作戦の内容を把握し、対象者に普及していきたい。脳いきいき教室は初めて聞いたので、お知らせしたい。
- ・ 街デイ。
- ・ 5月末に吹田市ケア倶楽部で掲載されるのを待ち、作業勧めてまいります。
- ・ 総合事業の把握、インフォーマルな情報や報酬改定変更事項の周知を図りたい。
- ・ 処遇改善については、きちんと確認したい。
- ・ 介護職員等処遇改善加算の変更については、また時間のある時に調べて対応していこうと思う。

**【6】介護予防・日常生活支援総合事業の取組にあたり、御質問等ありましたら入力してください。**

御質問等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護業務の担い手に手厚くするためには、まずもって事業所の収入増が不可欠だが、介護保険のシステムに絡められた現状で基本利用料が安すぎるうえに自由度もなく工夫のしようがない中、先行して人件費だけ上げろというのでは、弱小事業所は自ずと閉店せざるを得なくなってきている。行政としては、生き残るのは大手資本のみ、という方向性を誘導しているのか？</li> <li>・ 処遇改善加算が上がることについて、利用者負担が増えると思いますが、それに関して、説明と同意は口頭でもよろしいでしょうか？ 文書を交付、署名が必要でしょうか？</li> <li>・ 自立支援型ケアマネジメント会議の内容はホームページ等で確認できますか</li> <li>・ いいきい百歳体操やひろば de 体操などは屋外で行う場所も多い半面、夏季の外出への負担も増えると感じております。今後、オンラインなどで自宅でもできる方法の検討も必要と考えます。しかし、屋外での集まりは近隣の方との見守りの促進などの促しもありますので、難しい課題かと考えます。吹田市の短期集中サポートによる市の OT の訪問がより包括やケアマネジャーの支援の一助になればと思いますので、専門職と地域の支援の方々とスムーズな共有や意見交換に繋がればいいのではないかと考えます。過去の症例を通じてこのようなとき対応などを意見交換してもいいのではないかと考えます。</li> <li>・ 地域で活動されている方々も高齢化して、担い手や後任の人を探すのに苦労している。世の中、人手不足と年金では生活できないため 60 代では働くのが当たり前、70 代でも元気なら働いているのが当たり前になっています。ひと昔前のように現役を引退した人たちが地域福祉を支える担い手になる事を期待するのが難しくなっている。本当に様々な面で日本全体の人口減少と高齢化の波が影響を及ぼしているが、吹田市としては制度面を作るに当たり、その辺りの事をどうお考えか？</li> <li>・ 吹田市はサポート事業を今後も継続されるのですか 事業所によれば サポート事業がどうなるかわからないので 要支援の型を受け入れない所もあり 今後がどうなるのか 不安に思っている方もいます</li> <li>・ 短期集中終了後の繋ぎ先について。インフォーマルサービスの拡充の必要性を感じていますが、市として具体</li> </ul>

的な取り組みは考えているのでしょうか？有償ボランティアによる緩和型サービスや他市では通所型 C も始まっています。そういった部分がより必要ではないかと感じます

- ・ 訪問型短期集中サポートサービスについて、要支援の方や整形疾患のある方のリハ相談ができるとお話をされていた件でご質問です。当ステーションではリハスタッフがおらず、リハ依頼や相談案件はお断りせざるおえない状況です。そういった場合、リハ訪問の介入をしてもらい、私たち訪問看護から定期訪問をするような型で介入いただけるのでしょうか？

#### **【7】その他、ご意見やご感想がありましたら入力してください。**

##### 意見、感想等

- ・ 介護保険サービスの卒業を促す支援は、とても大変です。一度利用したサービスをやめることに対しての不安や、「あの人はデイサービスに行かせてもらっているのに。」など言われる方が多いからです。意向通りにサービスを組んだ方が、業務的には楽なのかもしれませんが、高齢者に納得していただき、自身を持って卒業できるかどうかは、やはりその方へのアセスメントを丁寧に行うしかない、と感じます。元気に暮らしてほしい、という言葉がその人に届く言葉選びも日々試行錯誤しながら、今回の研修を通して、活かしていけたらいいな、と思います。ありがとうございました。
- ・ 吹田市の現状、広くその全体像をみる事が出来てありがたく感じましたありがとうございます。今後ともよろしく願います。
- ・ 参加者が少ないと思います。居宅ケアマネに、もっと聞いてもらいたいです。自立支援という考え方が、ピンと来ない、興味ないのだと思います。どうしたら、自立支援に資する研修にケアマネが参加したいと思えるのか。支援グループ、包括、居宅部会？等一緒に、考えて工夫しないといけないと思いました。ケアマネの考え方ひとつで、高齢者の支援は変わることがあります。
- ・ 色々と再認識する機会になりました。賃金をあげることが、利用者の負担になることに気が引けます。物価高騰の中、年金で生活している利用者の事をおもうと、心苦しいです。利用者さんからは、単価相当分の1割から3割処遇改善分は国が負担するなどしてもらえたらとおもいます。
- ・ 予防活動をもし施設内でビデオでながせることは可能でしょうか？また普及させる映像広告はありますか？
- ・ 今後、高齢者が益々増える一方、支援の担い手が不足しますが、それでも要介護、要支援の方も誰もが必要な時に利用しやすい吹田であってほしいと思います。
- ・ 吹田市のネットワークの接続状態の改善をお願いします。音声の乱れも多く大事な点が聞き取れなかったりしています。よろしく願いいたします。
- ・ 今日、説明の音声が頻繁に乱れて聞き取りにくい場面が多くあった。通信機器の問題なので仕方ないと思うが。また、保健所の説明の時、画面が ACP の説明に切り替わっているパソコンと切り替わっていないパソコンがあったようです。